

イシバーシ（石火矢橋）と 重修石火矢橋碑



戦前のイシバーシ
『沖縄・昭和10年代』
—坂本万七遺作写真集—
より

イシバーシは豊見城グスクの南東側、饒波川下流に架けられた橋でした。

当初は木橋でしたが、1694年の洪水によって破壊されました。その後、1697年に石橋に改修され、碑はその時に立てられたものです。

橋は首里王府から各間切番所を結ぶ宿道に架けられました。王府からの通達（行政文書）は真和志番所→豊見城番所→小禄番所→兼城番所→高嶺番所→真壁番所→喜屋武番所→摩文仁番所まで伝達されました。

今次大戦で碑は破壊され、その断片が中央公民館に展示されています。元の碑の場所は根差部より石火矢橋を渡り、豊見城グスク側の藪の中に台座が残っています。

平成2年度に碑の調査が行なわれました。その時、碑面の下部が僅かに残っており、台座はほぼ完全な形であることが確認されています。しかし、台座のある場所が急斜面になっており、崩れ落ちないか心配です。

戦前の石火矢橋の写真をみると琉球石灰岩を加工したアーチ橋が架かり、橋脚には鋭角の潮切を設けており急流に対する配慮がされていました。



重修石火矢橋碑の台座

